

令和1年度

事業報告書



届けよう 小さな愛
つなげよう 笑顔の輪

社会福祉法人 湯沢町社会福祉協議会

はじめに

令和元年度の湯沢町社会福祉協議会業務報告をするにあたり、現況と今後の課題並びに指針を述べさせていただきます。

年末から過去に経験したことのない暖冬少雪に見舞われ、湯沢町をはじめ県内各スキー場においてはスキー客の減少から休業や規模縮小を余儀なくされたため、多くの従業員が仕事を失い行政や関係業界の経済的影響は計り知れないものがあったと思われます。

追い打ちするように、年明けからは全世界を脅威に陥れた新型コロナウイルスの感染拡大により、我が国においても緊急事態宣言が発出されるなか、現在（5月初旬）も様々な自粛生活や事業所の休業が求められております。終息の出口はまだまだ先かとも思いますが、わたくし達一人一人が地域全体のことを考え、地域は一つの目的つまり新型コロナウイルス終息と経済の回復を目指す（ワンフォアオール、オールフォアワン）ことが肝要かと思えます。湯沢町では国や県との連携のもと感染の防止と町民皆様の支援に全力を傾注しておりますので、社会福祉協議会といたしましてもこれと連携協力し町民皆様の健康と福祉を願い業務を行ってまいります。

2000年に介護保険法が施行され今年には20年目の節目の年にあたるわけですが、年々進んだ高齢化により介護保険やそのサービスを取り巻く状況は大変厳しくなってきました。2000年当時は約180万人だった介護認定者が昨年度は470万人に達したと聞いております。これら介護関係の国家予算の影響で、近年の介護報酬の改定では在宅系のサービス（通所介護等）の報酬が実質減額となり、看護や介護のスタッフ不足と相まって休業せざるを得ない事業所も数多く出てきております。

団塊の世代（1947～49生）の人たちが75歳に達するまではまだまだ高齢化が続くといわれているなか、湯沢町社会福祉協議会におきましても厳しい状況に直面しておりますが、役職員力を合わせてこの局面を乗り切ってまいり所存であります。

今後とも皆様に信頼され頼りにされる社会福祉協議会を目指してまいります。

令和2年5月

湯沢町社会福祉協議会
会長 佐久間 知良

事業報告

1. 理事会・評議員会等

- (1) 理事会 5回開催 (5月28日、6月14日、10月15日、
12月19日、3月19日)
- (2) 評議員会 2回開催 (6月14日、3月27日)
- (3) 会計監査 1回実施 (5月21日)
(上記の他 県指導監査1回 税理士法人による外部監査を12回実施)
- (4) その他必要に応じて総務委員会及び会長・副会長・事務局長会議を開催

2. 役職員体制

R2.3.31 現在 () 内は H31.3.31

- (1) 理事 8名
(2) 監事 2名
(3) 評議員 9名
(4) 職員

	事務局	訪問介護	通所介護	居宅 介護支援	児童 クラブ	計
正職員	6 (6)	3 (3)	6 (6)	2 (3)	2 (2)	19 (20)
臨時職員	0 (0)	2 (2)	5 (6)	0 (0)	0 (0)	7 (8)
登録職員	1 (1)	2 (2)	12 (12)	2 (1)	6 (6)	23 (22)
計	7 (7)	7 (7)	23 (24)	4 (4)	8 (8)	49 (50)

* 兼務職員は本来業務の所属に掲載

* 通所介護事業所の送迎車両運転員をパート雇用し、介護職員が業務に専念できるようにしています。

3. 主な行事・大会

期 日	内 容	会 場	参 加 者
5月21日	会計監査（一般会計・業務）	総合福祉センター	監事、事務局
27日	地域福祉活動計画策定委員会①	総合福祉センター	策定委員、会長、事務局
28日	第1回理事会	総合福祉センター	理事、監事、事務局
28日	第1回共募運営委員会	総合福祉センター	運営委員、事務局
23日	ボランティア連絡協議会総会	カルチャーセンター	ボランティア団体、役職員
6月12日	県社協評議委員会	ユニゾンプラザ	会長
14日	第1回評議員会	総合福祉センター	評議員、会長、監事、事務局
14日	第2回理事会	総合福祉センター	理事、監事、事務局
14日	第2回共募運営委員会	総合福祉センター	運営委員、事務局
20日	第1回共募助成審査会	総合福祉センター	助成審査委員、事務局
7月3日	第42回高齢者大運動会	カルチャーセンター	民生委員、会長、事務局
7月5日	社会を明るくする運動	町内全域	湯沢地区保護司、事務局
8月2日	少年の主張南魚沼地区大会	南魚沼市民会館	理事、評議員、事務局
21日	第30回南魚沼地区社会福祉大会	塩沢公民館	理事、民生委員、保護司等
25,26日	24時間テレビ募金活動	のぐちハーツ店他	ボランティア、中学生、職員
9月6日	敬老会	カルチャーセンター	理事、民生委員、事務局
27日	県指導監査	総合福祉センター	会長、事務局、各事業所
10月15日	第3回理事会	総合福祉センター	理事、監事、事務局
10月18日	高齢者福祉大会	湯沢町公民館	民生委員、議会議員、事務局
29,30日	第69回新潟県民福祉大会	南魚沼市	理事、評議員、監事、事務局
11月3日	第10回ふれあい福祉健康フェスティバル	カルチャーセンター	ボランティア連絡協議会、職員
11日	防災訓練	総合福祉センター	会長、理事、社協職員
18,19日	長野県富士見町社協視察	長野県富士見町	会長、理事、社協職員
21,22日	県内事務局長会議	胎内市	事務局長
12月19日	第4回理事会	総合福祉センター	理事、監事、事務局
20日	第2回評議員会	総合福祉センター	会長、評議員、事務局
1月31日	地域福祉活動計画策定委員会②	総合福祉センター	策定委員、会長、事務局
2月21日	第2回共募助成審査会	総合福祉センター	助成審査委員、事務局
3月5日	地域福祉活動計画策定委員会③	総合福祉センター	策定委員、会長、事務局
19日	第5回理事会	総合福祉センター	理事、監事、事務局
19日	第3回共募運営委員会	総合福祉センター	運営委員、事務局
27日	第2回評議員会	総合福祉センター	会長、評議員、事務局

4. 法人運営

① 信頼される法人運営

社協は民間の社会福祉法人であり、その業務は町民や福祉関係者に支えられた「公共性」と、介護サービス事業の健全経営を行う「事業性」を有しており、会員である町民の「安心して明るい生活」を目指し運営に努めてまいりました。

② 社協会費

社協の運営と活動は皆さまからの会費（700円）と町からの補助金、そして共同募金の配分金や県社協の補助金、さらに介護保険事業収入などで賄われております。

例年町内会の皆さまには会費の取りまとめをお願いし、納入いただいていることにお礼申し上げ、併せて地域福祉事業の向上のため引き続き納入にご理解とご協力を賜るようお願いいたしました。また、事業所等の皆さまにも特別会員としてご加入いただくよう勧めてまいりました。

社協会費収入の推移

H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	RI年度
1,420千円	1,394千円	1,405千円	1,421千円	1,407千円

会費の主な使途は次のとおりです。

○援護費（長期入院入所者援助、母子父子世帯援助）

○地域福祉費（老人福祉、障害者福祉、ボランティア活動、サロン）

③ 財務の適正運営

財務運営については社会福祉法人会計基準及び湯沢町社会福祉協議会経理規程に則り適正に執行してまいりました。監査については、2名の監事による内部監査を年1回実施するとともに、社会福祉法人の運営と経理に精通した税理士法人に毎月の外部監査を委託し、より高度な監査体制で適切な会計運営を行っております。

④ 情報公開と広報の充実

情報公開と広報については、次のように行いました。

・社協広報発行 フルカラー 年4回

・湯沢町広報紙にも掲載を依頼するなど、福祉や介護に関するお知らせ、及びボランティア活動紹介や募集等の情報発信を行いました。

⑤ 第1期地域福祉活動計画の最終評価と第2期地域福祉活動計画の策定

平成27年度から地域福祉活動計画に基づいて各種の事業を展開してきました。今年度は第2期地域福祉活動計画策定委員会を設置し、アンケート調査、住民福祉座談会、ヒアリング等を通じて第1期計画の評価ならびに新たなニーズの把握を行ない、第3回策定委員会において第2期計画が策定されました。

（第1回：5月27日、 第2回：1月31日、 第3回：3月5日）

5. 事業

基本目標Ⅰ 「ふくしを支える人づくり」

実施プランⅠ：元気にする・元気になるための活動の推進

- ① 個々のボランティア活動、湯沢町ボランティア連絡協議会活動を支援し、湯沢町のボランティア活動の充実を図ります。
ボランティアセンター業務として、個人・グループ活動の相談受付・調整・保険手続等の活動支援やホームページ・広報紙での周知を行ないました。
- ② ボランティア連絡協議会役員会や地域福祉推進座談会の開催を通じて意見交換をし、コーディネート機能強化について検討しました。
- ③ ボランティア連絡協議会と協働し、地域福祉推進座談会での研修会、フェスティバル開催、ボランティア体験等を実施することで担い手の発掘、育成を行ないました。
- ④ 生活支援コーディネーター業務並びに協議体運営業務を受託し、事業実施しました。活動計画評価の一環で、あらゆる世代の方から意見聴取しました。また、ボッチャをツールにした交流の場づくりを支援することで新たな人材とのつながりを構築しました。

実施プランⅡ：ふくし協育の推進

- ① 夏休みボランティア体験や中学生福祉学習、認知症サポーター養成講座、手話体験を実施することで福祉教育の推進を図りました。(湯沢児童クラブと連携) また、ボランティア体験参加者へアンケート調査を実施し、ボランティア活動への意向を確認しました。

※夏休み中のボランティア体験（活動別延人数）

ボランティア内容	児童クラブ	一般生徒	計	昨年	増減
いきいきサロン	1	7	8	10	-2
あさひばら	1	5	6	6	0
配食サービス	0	15	15	8	+7
その他	21	48	69	24	+45
(小計)	23	75	98	48	+50
24時間テレビ募金活動	0	34	34	16	+18
合計	23	109	132	64	+68

- ② 湯沢町ボランティア連絡協議会、地域交流センターやボランティア団体等と連携し、湯沢学園や湯沢児童クラブでのボランティア活動や交流事業を実施しています。また、世代間交流事業しめ縄づくりやボッチャ体験・町民大会を開催することで世代を超えた交流を行なっています。

③ 湯沢児童クラブの運営

児童の健全育成の一助となるために児童クラブの指定管理業務を行い、丸4年を経過いたしました。運営上の問題点としては、児童受け入れについて、湯沢町放課後児童クラブ条例施行規則で謳われている「おおむね40人」という定員を超える児童数を受け入れざるを得ない状況があり、指導員の不足や場所の確保が課題となっており、今後も、利用者受け入れについて湯沢町・湯沢町教育委員会と引き続き協議していく必要があります。今年度の取組み及び運営状況は次のとおりです。

○ 特に留意した取組み

- ・利用児童が安全安心に過ごし、児童一人ひとりが自立できるよう、指導指針の確認やクラブの環境づくりに配慮し、更に保護者の困り感にいち早く気付くよう、送迎時のコミュニケーションを大切にし、保護者との信頼関係を築くことに努めました。
- ・指導員の資質向上のため、日々の活動前の情報交換や研修会に参加した指導員からその内容報告を受け、現場にどう生かしていくかについて、意見交換を積極的に行いました。
- ・長期休み等の多様なシフトに対応するため、指導員の生活状況を把握し、無理なく業務を行えるように努めました。
- ・要支援児童や自立支援事業等様々なケースに対応するよう、子育て支援会議やケース会議に参加し、学校や保健師、児童相談所等との情報共有を行うことで、児童クラブの機能を生かした支援が出来ました。
- ・毎月行っていた「誕生会」を廃止し、週1～2回程度手作りおやつを提供し、子どもたちの食に対する興味・関心を深めました。その結果好き嫌いが減り、食べることの楽しさと作ってくれる人への感謝の気持ちが生まれました。

○ 利用件数と収入の推移 (単位 件、千円、%)

区分	H28	H29	H30	R1	
延利用件数	6,715	7,414	7,420	6,466	通年利用児童延べ 6,043人
収入	8,422	10,229	11,102	10,987	長期休暇時利用 延べ 421人
前年対比		121.5	108.5	98.9	スポット利用 延べ 2人

*R2年3月4日からの休校により、利用件数が減となった。

○ 実施した主な事業や行事

・手づくりおやつ	・農園作業体験 (認知症アクション農園)	・お楽しみ会
・社協夏休みボランティア活動参加	・いきいきサロン	・買い物体験
・高齢者デイサービスボランティア	・点訳の会「あいあい」 点字にチャレンジ	
・障害福祉サービス あさひばら	・遠足、自然講座 (高橋正明 社協副会長)	
・虹の会 (絵本の読み聞かせ)	・認知症サポーター養成講座	・手話で歌ってみよう
・クッキング (美味しんぼ倶楽部)	湯沢町食生活改善推進協議会)	

基本目標Ⅱ「ふれあい・つながる場づくり」

実施プランⅠ：参加・活動できる場づくり

① 生きがいの場となっている各種サロン活動の充実を図りました。

各種サロンの運営と支援

区 分	ふれあいサロン	いきいきサロン	やまぶきの集い
開催回数	47	38	11
延参加者数	269	531	127
延ボランティア数	184	281	91
1回当り参加者数	6	14	12

上記の他、三俣・堰場・石白・宮林・原・小坂・滝沢・下中地区で運営しているサロン事業に協力と助成を行いました。

② 世代や障害の有無などを問わず誰でも集える場や世代間交流の場づくりに向けて、男の料理教室やしめ縄づくり、ひなたぼっこを実施しました。今年度は各地区でポッチャをツールにした集いを開催、秋には町民大会が開催され、世代を超えた交流を図りました。

実施プランⅡ：情報交換・出会いの場づくり

当事者組織の活性化や出会いの場づくりとして、同じ境遇や悩みを持つ者同士のつながりや交流が図れるよう町内の関係団体との連携協力を行うとともに、各団体への活動支援や情報収集に努めました。

- ・ 民生児童委員協議会
- ・ ボランティア連絡協議会
- ・ 老人クラブ連合会
- ・ 身体障害者団体
- ・ 精神障害者団体
- ・ 保護司会
- ・ 知的障害者団体
- ・ その他

基本目標Ⅲ「安心して暮らせる仕組みづくり」

実施プランⅠ：相談体制の充実

① 総合福祉センターの窓口機能として、来所や電話での相談があった時には一旦受け止めた上で判断し、必要な支援者・機関へ紹介しました。また、個別ケースにおいては自宅へ訪問し、他機関と協働しながら相談や支援を行ないました。

② 広報紙やホームページの活用、各種会議等で事業紹介をすることで、相談窓口としての周知活動を行ないました。

③ 資金等貸付け事業の実施

資金等貸付事業の実施状況は、次のとおりです。

○ 生活福祉資金貸付状況（県社協主体）

低所得世帯、障害者世帯、高齢者世帯等で、必要とする資金を他から借り受けることが困難な世帯に対し、民生児童委員の意見を伺い貸付を行いました。

前年度からの継続貸付件数（各種合算） 18 件

・ R1 年度新規貸付件数 1 件

・ R1 年度償還完了件数 2 件

○ 小口資金（社協事業主体）・・・3 万円未満の小口資金貸付制度

・ 新規貸付 4 件（R1 年度償還完了 4 件）

・ 前年度からの継続貸付件数 2 件

資金残高 R2.3 月末 1,194,649 円

④ 苦情相談の状況

	H29	H30	R1	増減	備考
苦情相談件数	2 件	1 件	2 件	1 件	事務局 1 件 訪問介護 1 件

実施プラン2：知らせるための工夫

広報誌「社協湯沢」は、印刷業者を変更し「社協ゆざわ」としてフレッシュなイメージチェンジや紙面構成を見直しました。特に表紙には、さまざまな年代を取り上げて、より身近に感じられる内容を工夫しました。

実施プラン3：ひとりにしない仕組みづくり

① いきいきサロン、ふれあいサロン、やまぶきの集いの実施継続、町内サロン、ひなたぼっこ、ボッチャ、しめ縄づくり等世代間交流事業の実施することで顔の見えるつながりを作りました。

② 地域での見守り体制の強化

配食サービスや安心安全見守りネット、湯沢つながり隊やその他事業、専門職等と連携を図ることで、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう見守り体制を強化しました。

③ 支える人たちの連携強化

当協議会ではさまざまな事業実施、受託事業を行うことで、多種多様な機関と連携をとれる立場にあります。また、地域住民やボランティアを巻き込んだ形で連携を図りました。

・ 安心安全見守りネット事業

高齢者世帯や障害をお持ちの世帯で見守りが必要な方へ、週 1 回程度介護職員が訪問し安否確認を行いました。

（訪問対象世帯数 16 世帯 延 504 回訪問）

※支えを必要とする人たちへの支援状況は、次のとおりです。

(単位：人・千円)

事業名	利用者数	決算額	備考
長期入院入所者援助	16	480	共同募金、会費
歳末助け合い慰問	92	530	共同募金
行路人旅費支給	3	4	町補助金
母子父子世帯入学卒業祝い金支給	1	5	会費、町補助金
配食サービス	85	3,136	受託事業
高齢者世帯等住宅除雪援助	19	325	受託事業
寝具クリーニング援助	14	224	受託事業
家族介護用品支給	53	1,955	受託事業
保育支援	-	1,984	受託事業

④ 生活支援に関する事業

○日常生活自立支援事業（受託事業 797千円）

認知症高齢者や知的障がい者・精神障がい者の方で、日常生活を営む上で支障や不安のある方に対し、金銭や書類の管理、福祉サービス利用の支援を行いました。

・利用者数 13名 ・生活支援員数9名 ・延支援回数117回

○成年後見制度法人後見支援事業（受託事業 126千円）

12月に高齢者1名を新たに受任し、高齢者3名の後見支援を行いました。申立て支援は昨年度からの継続で1名の支援を実施しました。

・受任件数 3件 ・研修会等1回、29名参加

3月に予定していた研修会は、新型コロナウイルス感染予防の為、延期となりました。

・法人後見活動だけでなく、後見制度申立て相談等を適宜実施しました。

実施プラン4：お互い様活動の推進

①湯沢町より生活支援体制整備事業を受託し、生活支援コーディネーター業務と協議体運営業務を実施しています。今年度は活動計画評価における座談会やアンケート調査を実施しました。住民参加型在宅福祉サービスである湯沢つながり隊や湯沢雪堀隊の運営を行ない、住民相互の支え合い活動を推進しました。

・R1湯沢つながり隊の利用実績

延べ利用件数	185件				
活動内容	掃除	買い物	ゴミ出し	通院手続き介助	その他
	57件	100件	2件	23件	3件
利用時実人数	76名（各月の実人数の計／4～6人）				
活動会員実人数	63名（各月の実人数の計／4～6人）				
活動支援費	1時間 400円				

基本目標Ⅳ「楽しく元気に健康づくり」

実施プランⅠ：いつまでも生き活きと暮らせる町

- ① 各サロン活動や世代間交流の場の中で体操や健康講話等を取り入れています。サロン活動を年間継続して実施し、仲間づくりや交流を図ることで心の健康にも配慮しています。ボッチャの開催支援を行いました。
- ② 介護保険サービス事業の健全経営とサービスの向上
3事業所の経営を行っており、健全経営とサービスの向上に努めています。

◎訪問介護事業所

訪問介護は中山間地における在宅介護の原点であり、湯沢町においては、当事業所だけが運営しています。

① 訪問件数と介護保険収入の推移 (単位 件、千円、%)

区分	H27	H28	H29	H30	R1
利用件数	4,579	4,792	5,414	5,595	6,445
収入	19,487	18,528	21,769	25,127	29,189
前年対比	91.1	95.1	117.5	115.4	116.1

② 目標達成への取り組み

○サービスの質の向上

サービスの質の向上に繋げるため、9月にすべての利用者を対象にアンケート調査を実施しました。回答をいただいた8割の方より、サービス提供について「満足」「まあ満足」との回答を頂きましたが、そのほかにも数多くのご意見要望をいただき、職員一同改めてサービス提供をさせていただくことの大切さ、難しさを痛感しています。更に、1月には介護支援専門員、相談員を対象にアンケートを実施し、ヘルパーに対する利用者の真の思いや業務の評価を伺うことが出来ました。いただいたご意見、要望を毎月のミーティングで一つひとつ取上げ、スタッフ全員で改善方法を協議する中で、今後も「利用される方々の立場に立った、専門性の高いサービスを提供できる事業所」の運営を目指します。また、ヘルパーそれぞれで個人目標を掲げ、その目標達成に努めました。達成率や改善点を意識することで、さらに「サービスの質の向上」を図ることが出来ました。

○研修・会議等への積極的な参加

地域ケア会議や個別ケア会議に訪問介護事業所の全員が参加しました。他職種が参加し、「利用者の暮らしを支える具体的な方策を話し合う場」に参加することで、スタッフ全員が地域包括ケアシステムの一員であることを意識するとともに、他職種の人たちとの繋がりが出来ました。また、個々の目標を元に内部、外部の研修会に積極的に参加しました。研修で学んだ内容は、毎月の事業所ミーティングにおいて、スタッフ全員で学びを深め、業務に必要な知識・技能の習得に努めることで、個々の資質向上を図りました。

◎通所介護事業所

多くのスタッフで、大勢の利用者の皆様にサービス提供する事業所であることから、スタッフ間の連携や共通認識を大切に、利用者や家族の皆様の支援を行っています。

① 利用件数と介護保険収入の推移 (単位 件、千円、%)

区分	H27	H28	H29	H30	R1
利用件数	8,642	8,169	8,330	7,884	7,037
収入	80,346	74,407	78,654	76,723	69,228
前年対比	102.5	92.6	105.7	97.5	90.2

② 目標達成への取り組み

○情報の共有・連携による質の向上

日々、変化が見られた利用者に対して、スタッフでカンファレンスを行い、状況や目標の達成度確認やサービス内容の見直し検討などの意見交換やその他さまざまな情報交換を行いました。更に、ご家族の皆様にもサービス利用時の様子について、送迎時や連絡帳での報告及び必要に応じて看護師から直接電話連絡により状況のお知らせや、受診の促しも行っています。また、他のサービスを同時に利用されている方は、事業所・関係機関の間で情報共有しながら、よりサービス提供の質向上に努めました。

○専門性を高めるための知識・技術の習得

自己評価シートは、初めての試みであり「取組み」や「評価」についての検討だけで実施には至らず、今後の課題となりました。

また、研修等については、県社協開催のものを中心に、下記のとおり積極的に参加しましたが、事業所内で資料を回覧しただけで、研修内容の周知・報告が徹底されていなかったことから、今後は事業所内ミーティング等を活用しながら、研修内容の情報共有や理解を深めてまいります。

- ・フィジカルアセスメント（身体的評価）技法研修
- ・エルダー（新任職員の身近な指導・相談役）研修
- ・スーパービジョン（指導者から教育を受ける）研修
- ・高齢者、障がい者虐待防止・対策研修
- ・社協法人研修（身寄りなし問題）
- ・湯沢町高齢者支援関係者研修
- ・認知症ケア対応研修
- ・感染症対策検討会
- ・接遇研修

チェリーの会



◎居宅介護支援事業所

地域で支え合う仕組みづくりを意識しながら、介護保険サービスと地域の中にある社会資源との連携を図り、その人が望む暮らしの実現を目指し支援に努めました。

① 居宅介護支援事業の利用件数と収入 (単位 件、千円、%)

区分	H27	H28	H29	H30	R1
利用件数	1,186	1,339	1,314	1,412	1,420
収入	15,293	18,799	18,313	20,382	16,387
前年対比	120.6	122.9	97.4	111.3	80.4

② 目標達成への取り組み

○ 利用者一人ひとりが抱える生活課題に対して、それぞれの専門職や関連機関と連携を図りながら利用者の支援を行いました。

・社会福祉士等の助言を得ながら本人の意思確認を行い、医療との連携のもと、利用者の終末期を支えました。

・認知症により、当たり前の日常生活をも困難になっている利用者へは、事業所内部での検討、地域包括センター、病院、サービス事業所等と検討会を重ね、本人や家族の生活を支援しました。

・「身寄りなし問題」研修会に参加し、身寄りがないことで起る課題（金銭管理・医療同意・死後対応）について学びました。

○ 介護支援専門員それぞれが掲げた研修目標に添い、下記研修に参加しました。

- ・主任介護支援専門研修
- ・介護支援専門員更新研修
- ・苦情受付担当者研修
- ・認定調査員研修
- ・介護事業所管理者研修など

③ 講座や交流会の企画・開催

○認知症サポーター養成講座

夏休みの児童クラブにおいて、小学生を対象に湯沢病院の医師協力のもと、社協事務局・児童クラブ・居宅介護支援事業所職員により養成講座を開催しました。子供たちが認知症について関心を示し、自分たちに出来ることは何かを一生懸命考える姿勢に感動を覚えました。

8月2日開催 児童29名 居宅スタッフ 4名参加

○介護者交流会

令和2年3月12日開催予定で準備を進め、10数名の介護者様より出席の連絡をいただいておりますが、新型コロナウイルス感染防止の観点から、開催を断念いたしました。

基本目標Ⅴ「ふくして安心な生活づくり」

実施プラン1：雪に強い地域づくり

- ① 今年度は小雪であり、除雪ボランティア活動を実施しませんでした。
住民参加型サービス湯沢雪堀隊の相談1件受付、コーディネートをしましたでしたが、実際の活動には至りませんでした。
- ② つなぐことができる仕組み
除雪ボランティア派遣に関する要綱や支援ボランティアフローを作成し、民生委員児童委員と情報共有を行なっています。また除雪を行える業者を予め把握し、必要時に情報提供を行いました。
- ③ 除雪作業の継承
本年度は除雪作業が無かったため、実施できませんでした。

実施プラン2：買い物支援

- ① 湯沢つながり隊の運営を行い、買い物支援を実施しました。
- ② 生活支援体制整備事業の一環で、買い物についてのニーズ把握、湯沢つながり隊活動会員の発掘を行ないました。

実施プラン3：災害に強い地域

- ① 非常時の体制構築
災害対応マニュアルに沿った形で、社協内非常時訓練を実施し、災害時の体制構築を行ないました。また、雪国青年会議所主催の災害ボランティアセンター設置訓練に参加し、平時からの防災に関する連携強化を図りました。
- ② 共助の体制づくり
台風19号豪雨災害の被災地である長野市へ災害ボランティアバスを運行しました。他地域で災害ボランティア活動を行なうことで、自地域での災害発生時の共助体制づくりのきっかけとしました。(全3回実施、延べ28名参加)



実施プラン4：きれいで住みやすい町

- ① 湯沢学園絆活動との連携・協働事業は実施することができませんでした。湯沢町ボランティア連絡協議会と湯沢学園、地域交流センターとの連携がとれ、湯沢学園の美化活動を実施しました。

6. 連携

社会福祉団体との連携

① 共同募金会

共同募金会の組織は、中央募金会、新潟県共同募金会、市町村共同募金会があり、湯沢町共同募金委員会会長には湯沢町長が任命されています。共同募金は町内会の取りまとめによる町民皆様の戸別募金と、企業等の皆様からの法人募金や学校募金に大別されますが、善意の募金は全て新潟県共同募金会に送金したのち、湯沢町に配分され地域の福祉に使われています。

○令和1年度募金実績

- ・赤い羽根募金(戸別募金・法人等募金) 1,772,696円 (H30 1,707,618円)
- ・歳末助け合い募金 563,200円 (H30 569,400円)

湯沢町への配分金は次のように使われています。

- 長期入院入所者援助 ○ボランティア団体 ○障害者団体
- 老人クラブ事業 ○各種サロン ○歳末助け合い慰問

② 愛の協力運動

町内会のご協力により、本年度も更生保護法人新潟県保護観察協会の事業に賛同いただき方から愛の協力金として取りまとめをいただきました。

- ・令和1年度協力金実績 566,000円 (H30 576,200円)

愛の協力金は、次のように使われています。

- 保護司会の活動支援 ○保護観察対象者支援
- 更生保護施設への助成 ○社会を明るくする運動支援